

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	6月	19日	(記入者) 神野一美	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	東辻			
取材対象先	高取町 光明寺の木造阿弥陀如来坐像、木造聖観音立像				

所在地	高市郡高取町下土佐307				
所有者(取材 対応者)名	光明寺(光明寺 * * * * 住職)(個人 情報守秘)		連絡先:0744-52-4637(高取町役場)		
	PCアドレス				
取材申込	申込先・行政名など:高取町教育委員会 **学芸員				
市町村指定 文化財	彫刻	2 軀	木造阿弥陀如来坐像、木造聖観音立像 2 軀とも 2004(平成16)年3月31日 指定		
	建造物	構			
文化財指定理由	木造阿弥陀如来坐像:平安時代後期に遡る、高取町内では数少ない正統的な作風を伝える阿弥陀如来像である。木造聖観音立像:高取町内では数少ない平安時代中期に遡る作例であり、一木造の古例として貴重である。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	納骨堂:特に防火対策はしていない。火を使うことも稀で、消したことが分かってから扉を閉めるため問題はない。本堂には、表立って防火の機材などは見当たらなかったが、天井などにはセンサーが見受けられた。	特に問題ないと思われる。
獣害対策	被害の有無、対策など 納骨堂、本堂とも、動物が入ってくるようなことはない。	特に問題ないと思われる。
保存～継承へ 苦労と今後の 課題と対策	1739(元文4)年に元あった本堂を改修する際に、高取藩主の植村家道からの木材提供を受け、近隣の方々に浄財の寄付を受けて本堂を再建した。また、1862(文久2)年6月には、藩主の木材を受け庫裏を改築した。(高取町史より一部抜粋)藩主の菩提寺ではないものの、町史に書かれているように、その崇敬を受け奈良時代からの長い歴史をつないで現在まで継承しておられる。現在の住職で28代目とお聞きした。この後を継承される方も決まっておられるので、当面の心配はないものと思われる。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

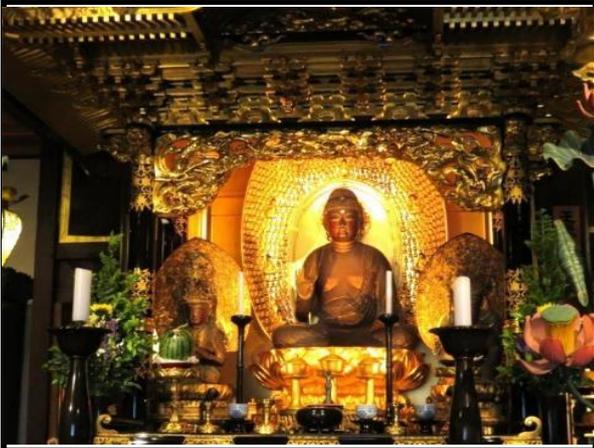
境内に一步足を踏み入れただけで、維持管理が丁寧に行われているのわかるほど、整然としていて美しい。境内には、納骨堂のほか焰魔堂があったり、山門の両側には浄土宗の寺では珍しい仁王像が出迎えてくれる。蓮の植わっている鉢がたくさん並べられており、聖観音の手に持つ蓮に合わせたかのように思われ、もう数日遅ければ極楽浄土もさぞやと思うような世界が見られたかも知れない。観光寺院ではなく、檀家あつての地域に息づく寺であると感じた。

市町村指定文化財取材票《裏》①

取材日	2024年	6月	19日	(記入者) 神野一美	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	東辻			
取材対象先	高取町 光明寺の木造阿弥陀如来坐像、木造聖観音立像				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 木造阿弥陀如来坐像

<p>阿弥陀三尊像形式でお祀り</p>	<p>阿弥陀如来</p>
	
<p>脇侍の勢至菩薩と観音菩薩</p>	<p>光明寺本堂</p>
	
<p>文化財の由緒などを記入</p>	<p>所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入</p>
<p>当寺の本尊で、ヒノキの寄木造り。頬が丸く、体部も柔らかくふっくらとして、衣のひだも浅く流れるように表現されており、いわゆる定朝様式の作例とみられる。像高は86.5cm。向かって右に観音菩薩、左に勢至菩薩の阿弥陀三尊像の形式で祀られている。両脇侍は文化財指定ではない。阿弥陀如来は、高取町の文化財指定前に、元興寺文化財研究所で修復を行っている。</p>	<p>当寺は、最初は子嶋寺近くにあった大寺院であったそうだが、現在地に移ってからの規模は、ほぼ今と変わらない。土佐街道に面して参道があり、近くには高取城藩主であった植村氏の下屋敷や、武家屋敷、商家などが残る。高取藩主の植村家は1640（寛永17）年から、明治の廃藩置県まで長く当地を治めてきた。寺周辺は、その名残が今も色濃く残る地域である。</p>

市町村指定文化財取材票<<裏>>②

取材日	2024年	6月	19日	(記入者) 神野一美	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	灰藤	東辻		
取材対象先	高取町 光明寺の木造阿弥陀如来坐像、木造聖観音立像				

<写真撮影許可済み

文化財指定名 木造聖観音立像

聖観音立像	文化財(角度を変えて、写真)
-------	----------------



納骨堂



土佐街道から山門を臨む



文化財の由緒などを記入



観音堂のこと

像高133.5cm、一木造で内割は無い。聖観音立像は、現在は納骨堂に安置されているが、もとは観音堂の本尊であった。本寺創建以前にこの地にあった密教寺院の旧像と考えられる。10年ほど前、奈良国立博物館の美術院で修復を行った際に、像の制作当初に近づくように修復を行っている。修復前は、頭には宝冠があったそうだが、現在は取り外している。

納骨堂に安置される前は、観音堂の本尊であった。高取藩城主の植村氏夫人が逝去の後に、慰霊のために観音堂が建立された。江戸時代に建てられた観音堂は昭和の終わりごろには傷みが激しくなり、納骨堂が新しくできたのを機に、現在の場所に移された。古くなった観音堂は、植村氏ゆかりの方にご了承いただいたうえで、撤去されたと聞く。また、そのころまでは観音講が存在していたということである。